

「カンボジア・スタディ・ツアーを終えて」

蕪崎西中学校1年 羽中田 寛

僕は楽しい気分でツアーに出かけました。

飛行機の窓から日本の町がだんだん小さくりワクワクしました。

ブンペンでは空気が暖かく水がぬるい。水は呑めず水を買う。クリスマスツリーには雪のモニュメントは無い。バイクは荷物をたくさん積んで走っている。バイクに5人乗ってる。信号なんてあったっけ？

日本とはまったく違う町でした。

内戦の歴史を学んで「かわいそうだな。」と思った。

僕は戦争を知りません。毎日の悩みも大きなものはありません。

もしも僕がカンボジアの人だったら地球くらい大きな悩みがあったらう。

地雷除去を体験では地雷除去の防護服を着て地雷原を歩いた。重くて、厚くて気持ち悪くなってしまった。

バタンバンでは毎日何時間も重く暑い防護服を着て地雷を探す人がいる。

地雷を踏んで死んでしまうかもしれない人のために、本当の平和のために働く人が暑い国カンボジアにいてすごいなと思いました。

地雷を安全に早く探し出し除去する機械を日本の僕の家近くの南アルプスの会社にいる。雨宮社長はカンボジアの悲しむ人に出会って地雷除去機を開発しました。近くにそんな凄い人がいることは僕の大発見でした。

僕はこのツアーでたくさんの小学校と児童養護施設を訪問し同年代の人やちいさなこども達と出会い折り紙を折ってあげました。

手裏剣を織るのが得意な僕は数えきれないほど折りました。

こども達に手渡すと取り合いになってもらってくれました。

雨宮社長みたいに立派なことは出来ないけれど、僕の折った折り紙で嬉しそうに笑ってくれたことは小さいけれど支援が出来たようで嬉しかったです。

僕は中学1年生で中学校では支援学級にいます。僕も支援を受けて勉強をしていますが、折り紙を折ったように僕ももっと勉強をして自分に出来る支援をしたいと思いました。